（二十六日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日 第一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢（郵税十五錢）
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 飯沼
發行所 磐城新聞社 福島縣平町田町十六番地

紙上相談

季節と體温

高低があらう

一、私事一年程前より右背部（肺の位置）に指先にて觸れてゐられる樣な、輕くしびれてゐる樣な感じがありますが大變の事もないので家事に從事してゐるのですが最近午後になると三十七度一分位に体温が上がるので呼吸器に異狀あるのでせうか

二、健康体でも夏季と冬季とでは夏の方が体温も上るものでせうか　（愛讀者）

一、お尋ねの條件だけでは直に呼吸器に異狀ありとも申上兼ます、所々局部的に疼痛感のあるのはヒステリーの一症候ですから餘り神經を痛めぬ方がよろしいでせう

二、体温は種々の場合に幾分高低があります、運動後に高く食後に高く又夏季氣温高き時は冬季に比し幾分高い樣ですが併しこれ等生理的の高低は大した事はないのです、外に異狀がなければ餘り氣にせぬ事

養家を再興

緣故關係不明で

私は明治初年に某家へ養子となり入籍せざる内に養父母死亡（明治九年五月）したるため養家は絶家となり今日に至ります今度養家を再興致したいと思ひますが如何の手續きをしたならば再興出來ますか目下私は生家の分家になつてをります　（和田生）

絶家を再興せしむるとするには必ずその絶家と本家分家又は親族の關係あることが要件とします、お尋ねの養家と貴郎の家とは如何なる間柄、あるものなりや、それが先決問題です、末項に貴郎が生家の分家なりとあるが生家と事實上の養家とは如何なる續柄なりやそれが明瞭でない限りは何とも返答が出來ません

轉籍地點呼

早く司令部へ

分家戸主（原籍水戸）となり轉籍したるもの、轉籍地にたいて直接點呼令狀（補充兵）を受け得るや　（二十三歳男）

水戸市點呼も稻敷郡點呼も八月中旬頃ですから早く司令部へ手續きをすれば轉籍地において受けることが出來ます手續きなどは役場にて御聞きなさい

黄昏時

虚秋作

水た映つた灯のちら／＼
ゆらぐその夕
私は川端の小徑を……草深い小徑を
あまる思ひ出の糸をたぐりつゝ歩いてゐた
なまあたたかい夕風が
足もとのかよわい夏草をなでて
灰色の宵暗に吸込まれて行つた
水の面に灯がゆらいでゐる
あゝ灯がゆらぐゆらぐゆらぐ灯がゆらぐ
露深い土手の草の上に腰を下して
ゆらぐ水面の灯を見つめる
あゝ淋しい
淋しさはいつも私のそばにゐる
淡い思ひ出が泛んで直ぐに消え去つた
岸の柳はさら／＼と水のそばまで垂れてゐる
あゝ淋しい黄昏の町
今……今灯は赤い光に青い光にゆらいでゐる
悲しい光にゆらいでゐる
ゆら／＼とかなしい風に吹かれて赤い光に青い光にゆらいでゐる
土橋の上を通る人の姿が水に長く映つてゆらいでゐる
赤い灯も青い灯も
垂れた柳の糸も人の姿も
水に映つてゆらいでゐる
私の心も淋しくゆらいでゐる

廢兵の世話

軍事救護は縣で

一、廢兵や戰傷病者の件につき世話をなさる方があると聞きましたが住所は何處ですか、會の名及姓名をたお知らせくださし

二、增加恩給受給者だけの會ですか又戰病死者遺族の方及一時賜金者の方々も御世話下さいますか會費は一ヶ年何程ですか、傷のため不自由で生活に苦るしんでをる者ですが救助の方法はありませんか　（負傷兵）

一、廢兵や戰傷病者を世話する會といふのは認めません但し廢兵會といふ組織はある樣です

二、戰傷病者や廢兵にて困るものはその性質によつては軍事救護を受けられます、縣の社會課にて取扱ひます

明日の吉凶

舊曆六月二日　新曆六月二七日

▲一白 平和と眞面目は此日を守る唯一の心構たり乾と庚と甲が吉▲二黒 六分通り成りて殘り四分に苦心することあり坤と丙と庚が吉▲三碧 人の長を採り我が短を補へば德日に集る丙と坤と壬が吉▲四緑 追ひ／＼と良き運に向ふ日自重して焦るなかれ丙と丁と壬が吉▲五黄 思ひを靜め秩序を亂さず徐ろに進み進むべて▲六白 急速の發展を望まず自ら隱忍すれば萬事吉巽と北と南が吉▲七赤 向ふ河岸の花を見るが如く手を入れがたき日巽と北と艮が吉 ▲八白 外に出でては兎角天窓の上らぬ日内仕事安全坤と艮と巽が吉▲九紫 吉運の日にして陽氣時々刻々に增し來る乾と北と巽が吉

ハムよりうまい
鹽豚販賣
田町　三二三屋

講談　幕末高山彦九郎 (172)

中西洋々作　市施長春畫

上府の命令（三）

その事を聞き知つた村人たちは、今更のように、ひこ九郎の德の大きいのに、嘆じ入りました。

「さうだ、あのひこ九郎様のような方が、お見出しにあづからねようぢや、松平さまも、名程にわえ盲といふもんぢや」

「全くよ。そうにちがひね、あの天明四年の饑饉のときだつても、見ねえ、もしあの旦那さまがゐらつしやらなかつたならこちとらにはあ今頃あヒボシになつてゐるところだせ」

「今日、かうして働いてゐられるのもあのとき、米倉を開いて下すつたお陰だ」

「あの時あ、傳藏さまと、も隨分大きな喧嘩をしなすつたそうだなア」

「なんでも、出て行け、出て行くのさわぎまでなつたんだそうだが。あれも、みんな、こちとらの爲を思つて下さりやこそだつたんだこの御恩は、わすれちやならねえなア」

「全くだ」

「なんにしても、松平様の御法政になつて、お召し出しになるてなア、お芽出度いことだア」

「なゝ／＼さういやあ、あすこにいらつしやるのは、ひこ九郎さまちあねえか」

「たゝ、そうだ。早くいつて、お見送り申し上げよう……」

この日は彦九郎が、愈々上府すべく旅路にのぼる日でした。田畑の仕事を休んで、朴直な村人たちは、ひこ九郎の行を見送らうと、ぞろ／＼集まつて參りました。

「彦九郎さま、お芽出度うございます」

「此度は、何とも早お芽出度いことでございます」

口々にかういつて祝ひの言葉を浴びせかけました。

彦九郎は、長藏と並んで甚作夫婦や、妻のお光につき添はれ乍ら、歩んで參りましたが、この言葉には、思はず涙がにじみ出て參りました。

「いや、辱うござる／＼」

かういつて感謝のひとみには、あらぬ幻影の自分の姿がうつつて參ります。●

「下れ／＼」の前ぶれも勇ましく、數十人の家來につき添はれ、馬上豐かに歩みを張るのは誰はすぎ知れた高山何々之守正之と、天晴れ任官した自分の姿です。

お光の方、お清姫など云ふ妻子の姿も彼の目に浮かんで來そうです。が、かういつたからとて彼は、決して、徒らに空想にのみ走る、理想主義ではありませんでした。

粉骨碎身、犬馬の勞もいとはずに、つくして來た仕事――京學復興の事業が、目的の相違に依つて、挪つこしまつた今日、彼にとつては、唯一再生の望みといふべきは、この事に依つて遂せられなかつた、自分の抱負を江戸學問に依つて、松平越中守の手に依つて、實現せられはすまいかといふことでした。

されば、その幻影の目に映ずる自分の姿も、決して一身の榮與をのみ考へるのから來たのではない、みな自分の目的達成の曉を慮へばこその幻だつたのです。

「行つていらつしやいまし」

「晴れのお歸りをお待ち申します」

かういつて、誰彼が別れを惜しんでくれるのに、いつになく晴れやか、旅の門出を喜び乍ら、彦九郎は嬉て一人、上府の旅にのぼりました。一歩／＼、運ぶ足も輕く／＼。

◇二十六日ヨリ公開◇
日活超特作映畫……
大河内傳次郎。伏見直江
原作・林不忘氏……文藝倶樂部連載
續大岡政談（魔像篇第一篇）
監督・脚色……伊藤大輔氏
享保庚寅の元旦、江戸城西丸御書院番詰所に於て戀の勝利者、神尾喬之助に番士十七名が罵倒を浴せた事によつて、端を發す突如……詰所に投げ込まれた生首、大岡越前の出馬、事件は颶風の如く捲き起つてくる
松竹現代派大作映畫……
三善人（全）
磐城、入山兩炭礦を背景として、ロケーションせる、松竹自慢の名畫
岩田祐吉、押本映治、小林十九二……共演
日活作品……
牡丹燈の記（全）
梅英二郎・市川小文治・櫻井京子・尾上桃華
日活松竹　平館　電四六六

電話新設 裏座敷增設 披露
和洋料理 武田料理部
食肉販賣……肉販賣部
海水浴には是非武田バーに御寄り下さい肉は年中休みがありません
女給入用
四倉町本町通り　三二三屋支店　電話三二番

電話番號が變りました……
電話八六〇番
平町新田町　青柳

內科、小兒科 花柳病科　入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町　電話平局五〇七番

品質本位
蜂ブドー酒
佛國の葡萄
佛國ボルドー産の最高原料を以て最新の學理と研究の結果の下に醸られた美味と滋養の蜂ブドー酒は人間になくてならぬ健康の母でと認めたものであります
發賣元 東京本町 近藤利兵衛商店
醸造元 東京神谷 神谷傳兵衛本店
4—67

江戸前 會席
あわびの料理
初夏の鳥料理
始めました、ぜし一度御試食下さい
出前迅速　錦水
田町末廣東隣り（電八〇三）

元祿
發賣元 株式會社朋友商會
△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇
大販賣店 平町五丁目角 山野邊藥局

夜間診療
胃腸 花柳
內科 十二指腸虫病 專門 內科部
淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸病花柳病科醫院
（平南町電話一〇七番）

みやこ染講習會
六月廿八日午後一時より午後四時まで
同廿九日午前九時
（二日間）連續講習
◎講習無料◎
場所 平第二小學校講堂
主催 平婦人會 平女子青年團
後援 平藥業會

割戻金三分に增額し 重役は全部引責辭職
けさ二時妥協案に調印を了す
平の魚屋騷動解決

石城鮮魚商組合對魚市場の係爭問題は既報の如く野上商工課長、鈴木縣議その他の仲裁者と双方の代表が二十二日住吉屋本店に於て會見妥協案につき双方とも誠意を以て審議考究の上更らに平魚市場では昨二十五日開會の株主總會に右妥協案を諮つた上再び組合代表と會見の結果二十五日の折衝は遂ひに今二十六日午前二時に及び漸く一致點を發見し二時半魚市場に於て調印を了した、決定せる妥協條件は

從來魚市場が組合員に交附してゐた二分の拂戻金を三分に增額し組合の所有なる白銀町の取引所建物を市場が八百五十圓を以て買收する外組合に對し六百五十圓を一時貸付け右拂戻金の內より一分づゝ償還に宛てる事とし組合側は將來他に市場類似の營業を今後絶對なさざるは勿論取引は平魚市場以外の所ではせぬこと等大體の條件で妥協成立したが更らに皆川新一、伊藤彌平、佐藤作平、野崎滿藏の諸重役は責任辭職をなすことに決定したがこれを要するに魚市場は今日迄の損害は其の儘組合の建物買收その他一千五百圓の現金を組合に提供する外重役の責任辭職となり結果は事實上鮮魚商組合側の大勝利に歸した譯である

九州炭に壓倒され 需要全く激減
當事者の苦心を酌めと 磐炭から株主へ

石城郡內鄕村磐城炭礦では財界の打擊による炭礦不況の現狀を株主に悉知し當局の苦心に對して諒解を得べく株主に對し左の如き實狀報告書を發した（前略）如斯事業界は萎靡不振にして石炭消費量の減退著しく本年一月以降四月に至る四ヶ月間の全國消費量を檢するに八百九十九萬三千噸にして前年同期間に比して百五萬五千噸を減じ約一割〇分五厘の減少率を示せり又常磐炭に於ては尚一層消費量の減退と加ふるに低率なる海運賃を利用して移入する優秀なる九州北海道炭の進出とに依り漸次販路に壓迫を受け非常の難局に立つに至りしは洵に遺憾とする所にして蓋し不得己情勢なりとす、而して常磐炭の山元より東京市場の隅田川驛に至る鐵道運賃は一噸三圓前後の賃率なるに反し九州北海道炭の積出地たる若松港又は室蘭港より横濱港に至る汽船運賃は一噸一圓前後に過ぎずして常磐炭は約三倍に近き高率の運賃を負擔する點に於て既に著しく不利の狀態にあり、之れが爲めに本年一月以降四月に至る四ヶ月間の需要も七八六、二五八噸に低下し之れを前年同期間に比し一五八、五六四噸を減じて約一割六分七厘の減少を示すに至れり又鐵道省納炭以外の營業炭のみの需要は實に貳割の減少率に當る（後略）

平地方に夏祭りの蓋明く
赤い帶に白い浴衣の夜祭情緒！

平町にはうれしい夏祭が近づいた、若い娘の桃割れに赤いかんざしがちら〱搖れる——と云ひばしつぽり味はへる夏の夜の情調だが、

◇

一九三〇年の平の町にはもうそうした情景が、殆ど見られなくなつた、宵闇せまれば場末から場末までカフエーの赤い灯が蓄音機の響きと、ウエートレスの朗かな頬と媚態と微笑みとが夜の潮に乘つてやつて來る

◇

月給を前借りしてカフエー通ひの銀行員が父親の愚痴に〆出しを食ふのも珍らしくない、永遠に赤く塗られた唇と髮子をまるめたタイピストがボックステリヤの紐を抱いて勇敢にフキルト草履で踏しめて行く姿も見飽きた

◇

けれど夏の祭りにふさわしい若者の浴衣と、娘の赤い帶とは、宵の街になくてはならぬものであらう、夜の祭りの盛り場に交錯する、白粉の香ほりと汗くさみを縫ふて根限り精一ぱい、通ひつめる若もの娘もあると云ふ、そこには犯罪と罪惡と卑猥とが夜の幕の中にめぐるしく演ぜられるのであらう

◇

しかし、若いもの同志のために夏の夜の祭りが、どんなにうれしいものであるか昨二十五日の材木町の大杉稻荷祭を振り出しに祭りの幕は切られた

四倉の忠臣藏

四倉町海盤座に開演中の市川段藏一行忠臣藏劇は大人氣で毎夜大入なりと

守留宅の賊
鎌田の男捕はる

平町字鎌田町前科四犯鎌田清美（三三）が二十三日午前九時ころ双葉郡大野村大字大河原字上綜屋敷五横田丑之助方に忍び入りバスケットを窃取せんとせしを同家の三男文郎（一七）が發見騷ぎ出したので妻たつ（三九）と通行中の同村字上平農吉家金治（三四）が追跡し上岡村大字本岡字坊の木雜貨商佐藤廣や菓子を窃取してゐるところを富岡署員と共力し逮捕した

平驛長が着任

平驛長豐崎治助氏の後任として廿五日高萩驛長廳植晴吉氏が來任した

植田繭市場 移轉新築
秋蠶迄に完成

石城郡植田町に設置された植田繭市場販賣利用組合は去る十二日より業務を開始し二十三日を以て好成績を收めて春繭の取扱ひを終つたが現在の市場は舊市場を買收したもので路地狹く自動車の通行に不便なるのみならず敷地狹隘にして乾繭器の設置其他將來倉庫設置等の場合の便少からざる爲め去る二十三日役員會を開催し市場を移轉することに決議した移轉地は植田町八幡下にて鐵道線路の西側臺清昇氏の畑地八百坪を借り受ける事となつたが同所の周圍は畑にて將來市場擴張の場合自由に敷地を取り得べく交通便なるため理想の地と云ふべく市場役員一同は二十四日中村繭市場を視察の翌二十五日設計書を出さしめて直に移轉に着手する筈であるが乾繭器新設一萬二千圓の外移轉費用金一千圓で八月廿五日までに完成の豫定である

磐中校長の後任 發表は六月末
異動は極小範圍

磐城中學校長唐土齋治氏の轉任と臨村中學校長小川精氏の依願退職により縣下十一中學校長中二名の欠員を生じたがこれが後任について縣教育課において過般來詮衡中のところ既に內定した模樣で內一名は縣外から移入し他の一名は縣下中學校の教諭から拔擢任命する筈であり本縣下として當然中學校教育の異動が行はれることになるが縣の方針は中等教員の異動は昨年六月全般的に行つてゐるので今回は小範圍に止める希望で時期は六月下旬に行ふ意嚮である都合によつて七月上旬になるかも知れぬ

林木材を盗む

平町北目叶田鋒治所有好間村地內山林から木材八石價格二十圓が何者かに盗材され平署に於て犯中搜査中の所右は同村正木某（四〇）の所爲と判明目下嚴重取調中

通風器の故障で 坑內瓦斯爆發
坑夫三名火傷危篤 きのふ藤原坑で

石城郡磐崎村藤原炭礦本オロシ八坑に於て二十五日午後七時半頃通風器故障の爲め一大音響と共に瓦斯爆發し折柄作業中の火藥係伊達郡伊野村日山片寄勝之丞（四三）朝鮮平安南道仁川郡南理金才淑（四二）朝鮮清正北道沃川町青山面法北里光山金正（四三）の三名は命から〱這上つたが各れも大火傷を負ひ生命危篤

收繭四萬貫
片倉磐城工場で

平町磐城片倉製糸場では春繭買入れを大体終へたが買入れ貫數は二十五日まで約四萬二千貫で全部終了までには豫定の四萬五千貫に達する見込である前年の春繭買入れ高は約三萬五千貫であつた、尚同場買入れの繭は同社の特約組合の生產なので只風雨害で桑葉が堅つた爲繭は解舒良好の割合に系量は少ないと

復活
石城實業野球 範圍を擴張

石城實業野球聯盟の野球リーグ戰は中止されてゐたが最近野球熱がボツ〱昂まつて來たのでリーグ戰を復活すべく協議を進め大体今秋シーズンまでには復活する事となるらしいが今度は範圍を擴大して現加盟チームの外に郡內各地のチームに對してもリーグ戰參加を勸誘する筈で復活の曉は可成りの大試合が行はれるものと見られファンから期待されてゐる

告訴取下げ
擔保返還の要求

茨城縣新治郡葦穗村小倉中島唯一は過般石城郡飯野村上荒川長尾坂本金作より家屋を低當とし金百五十圓を借受けたが唯一は其後金は返すから低當を返してくれと迫つた處そんな事は知らぬと一點張りなので金作を相手取り平署へ告訴中であつたが廿五日右告訴を取下げた

四倉の小火
ゆふべの騷ぎ

四倉町字新町吉田彌十郎氏宅の鰹節製造內屋より廿五日夜八時半頃發火し一時は大騷となりたるが附近のもの馳せつけ大事に至らず消し止めた損害三百餘圓

平家屋委員會

二十五日午後二時より平役場會議室に於て家屋調査委員打合せあり

平町にチブス

平町新町農猪狩富雄（三九）は清水醫師の診斷の結果チブスと判明廿五日隔離病舍に收容した

四倉の角網
投網 潮流も順調

四倉角網は數日前投網すべきはづの處潮流の關係で準備は出來上りたれども投網出來得なかつたが風も靜かになり今廿六日投網をなす

大工の無錢
平署へ訴へらる

平町仲町大工職山崎喜一郎方雇人信夫郡飯坂町投網町生れ佐藤吉衛（四一）は二十四日午後九時頃南町飲食店山崎喜一郎（四〇）方に至り酌婦坂花キヌエ（一七）を相手とし五圓を遊興し金を拂はぬので平署に訴へられ取調べを受けた

吉田眼科醫院

小川村長決定

石城郡上小川村長選擧の村會は既報の如く二十五日午後一時より開いたが滿場一致で同村助役白井菊藏氏と決定した

妻の弟を相手に 財產横領の告訴
神谷の新妻熊太郎が 平署へ昨日提起

石城郡神谷村大字上片寄新妻熊太郎（五八）が妾と同棲中何時の間にか自分所有の動產不動產約二萬圓が妻しの（三六）の實弟實（二六）しのゝ伯父同村篠崎久之助の名義になつて居たので問題となり平署で關係者を呼出し取調中であつたこと本紙既報しが熊太郎は二十五日久之助を相手取り財產橫領の告訴を平署に提起した

農村教育と
音樂の鄉土化（下）
津保美久仁夫

△鄉土化の要求

然し校歌と申しても鄉土を眞に考へて折込まれ唱謠せしめるに適當を得た歌曲でなければ何んにもならない事は今更事新に申す必要があるまい自分が或る學校に奉職中毎週月曜日の朝會に於て全校生徒が校歌を歌ふ事になつて居たが、滿足に唱謠の出來た時がなかつた、歌が長かつたせいか、言葉（歌詞）の使用法に適當を得ないか（此の問題は別として）こんな風では愛用に務めても教師が泣き生徒も泣き、歌はれる校歌としても氣が氣でない、勿論校歌としての生命が失はれてゐる筈だ毎週の月曜の校歌の指揮は主に冷汗が流れ、殆ど校歌は校歌として使命を果さず練習で結局終つて來た樣である同時になつたら校歌が校歌としての效をなすか悲しい事だ（校歌に於ては後日暇を見て述べる）小學校の兒童はやがて青年處女となる、來國家社會に向つて活動し、貢獻すべき第二の國民である、國家の健否は實に彼等の双肩にかゝつて居る、吾々が此方青年子女に向つてその健全なる進歩發達を希望する所以のものはこゝに在するのであるが最近の農村趣味を考へて見るに（平町影響村は別として）娛樂の減退せしむるものは明白な事實ではあるまいか（自分が少年時代を鑑みて）盆踊りがすたれ來て、太鼓の音も響かずになり——。之は一方健全なる青年團の組織せられて他に適當なる娛樂修養機關の設けられたるにも依る事だが、かくして彼等は意氣の消沈を來し、不平の徒は他に遊びて搖らなる。

俗かを移入して來る

自分は盆踊再興論を語る者でもないが、これ等の消滅した以上更に之等に變るべき青年か（鄉かをも含む）の出でんことを希望する即ち愛國的精神を鼓舞涵養し共同心を養成するに足るべき歌曲の作出せられん事を熱望する、然らば彼等青年子女はよろこんでこれにつき、生活のために全力をつくして勤勞するであらう。外國の實例にも或工場で女工連中が盛んに流行歌を作業中に自由にうたひ續け、機械にまき込まれてゐる。すべての空氣がにごされてゐる時に、女工は何等の苦も忘れたゞ無意識に活動する事は實に尊いものなるに工場長は餘りに流行うたが廢められ、やかましき機械の中に猶やかましくもうたを唄ふをとばみ女工連中全部に流行うたの唄ふを嚴禁した、處が今までの仕事の三分の二にも足らない生產高となり、其の原因を探つて見るに、結局流行うたを嚴禁した事に依る事を知り何等音樂に對する理解を持つてゐなかつた社長もこの事より理解を持ち大いに音樂の普及に務めたと云ふ。

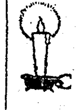
斯樣に音樂は我々の感情の變化と密接な關係を有する事はこの例ばかりでないが我々の外部（身体的）及び內部（心）の運動を表現に對する密接な關係を要してゐる。

遊技又は筋肉勞働の動作を助ける所の羽子唄、樵唄、子守唄、舟唄、馬子唄、機械うた、米搗うた、茶摘うた、田植うた等が澤山ある、又は內部の情的發動を助くる音樂は凡ての叙情曲、叙事曲などがあり、少し進んでは音樂によつて、我々の心の中に起つた種々の想像により音を組合せたものゝ表現が多い。

斯樣に音樂はすべての力となつて現れて目に映じない神秘的なものだ、農村の人よ、娛樂として一日の勞をヴアイオリンによつて己れを慰めて居る時、父として母として決して其れをとがむる事は恐ろしい、道德的な罪惡な事だ。

音樂を娛樂として己れに親しみをあたへることは人生の最も尊い美しいものだ。

父として、母として、兄として、姉として農村の人だからヴアイオリンを彈く事が出來ないと云ふ筈はない出來る事希む事なら夕べ晩餐後に一家揃つて合奏合唱をして見たい（終り）



タクシーの御用命は
新しい氣持のよい
昭和タクシーへ
電 三四三番（サシミ）

初夏 サロンの新裝
店內に新綠の氣分を集め、アイスクリームを開始いたしました、ドーゾ御用命を……（御一人前十五錢）
田町 サロン 電話三五二番
サロンの公休は毎月第三火曜

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原[illegible]郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三三男
平町田町本通
市原醫院
入院隨時
電話一一四番

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
花春 同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科 〔專門〕
平町南町（齋診療所向）電一七〇番
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番